

あくていぶ

法人設立
20周年記念号



法人設立20周年
記念号

vol. 20

対談

地域とつながる 〓 筍憩会のこれから 〓

小川進太郎

社会福祉法人
筍憩会 わかば 所長

平成12年憩いの家共同作業所に入職。平成18年10月よりあるべじお所長、平成26年4月より若葉作業所長に就任、現在に至る。



この度、法人設立20周年を記念し、三者対談を企画しました。対談では、筍憩会とのつながりが深い坂口淑子氏（以下、敬称略）をお迎えし、地域とのつながりをテーマに、筍憩会の今後の方向性についてざくばらんにお話していただきました。筍憩会丸の目指す先はいづこに！

木下：ではこれより、筍憩会と地域とのこれからのつながりを考える、をテーマに対談を始めたいと思います。今後30年40年と地域の中で筍憩会が活動していくときに、地域の立場から今後の筍憩会に期待することなど、坂口さん、いかがでしょうか。

坂口：統合失調症の方は減りましたが、生きづらい世の中になり、その分パーソナリティの問題を抱えた方が増えたように思います。自分の親との関係性のしんどさを根底に持ったまま妊娠出産し子育てをしている方々が増えています。そういった現状の中で、困難な事例を通じて、『筍憩会さんが培ってきた様々なノウハウを地域や私たち行政に活かしてもらいたい、保健医療福祉の連携は不可欠なので、筍憩会さんには同じ支援者としてパートナーになって伴走してもらいたい』と、思っています。また、筍憩会さんの地域での認知度は上がってきていますが、まだまだ精神障害に対する偏見も多いので、地域活動を通じて理解が広がれば、もっともっと生きやすい世の中になると思います。そういう意味で筍憩会さんには今後もすぐく期待しています。

木下：ありがとうございます。時代と共に精神障害の形が変わってきていて、今はパーソナリティ、関係性の問題が出てきているというお話でしたね。小川さんもそういう問題については実際活動されていて感じていると思います。坂口さんのコメントも踏まえた上で、筍憩会の今後の方向性をどのように考えていますか。

小川：今後の事業展開を考えた時、僕の頭の中には、生前蕨野さんがよく話していたことを引き継がなければならないという想いがあります。今実際僕らが関わっている方々は、発病して受診して、そして入院が必要だったら入院を経て回復してこられた人達が圧倒的に多いのです。蕨野さんはよく、「これからは予防のところを考えたほうがいい。幼少期の頃にアイデンティティの基盤は決まってしまうので、そこに介入していかないことには現状は変わらない。」と言っていました。事業展開として考えていきたいと思っているのは、その予防のところだと考えています。もう一つ筍憩会としてやらなければならないことがあります。蕨野さんというすごく大きな屋台骨がいなくなってしまったこと

坂口淑子

橋本市子育て
世代包括支援センター
センター長／保健師

当法人の前身である憩いの家共同作業所立ち上げの頃からの関わり。



木下忠恭

社会福祉法人 筍憩会理事長／
Office-K 代表／
臨床心理士・公認心理師

橋本市中学校教員、橋本市教育相談センター長を経て、現在に至る。当法人とは前職時代の頃からの関わり。



で組織がフラついている感覚があり、じゃあそれをどうしようかというところで色々と話し合いました。そして、法人理念の見直しをしようということになって、目下話し合いを続けているところです。「あくていぶ・ぼじていぶ・くりえいていぶ」という理念が、今現在組織の中に浸透しているのかと考えた時に、それほど浸透していないんですね。それぞれの職員が一体自分達は何のために働いているんだっていうところが明確化されてないというような話が、蕨野さんが亡くなってから出るようになりました。それを受けて、ちょうど昨年度から、「あくていぶ・ぼじていぶ・くりえいていぶ」という言葉は残しつつ、きちっとそれを明文化しようということになりました。私達はこれこれこういう目的で働いているんだっていう事を全職員に周知しようというところの作業を現在行っている最中なんです。まずは理念見直しの作業を通じて組織を立て直していかなければならないと考えています。あとは、アドボカシー。これも蕨野さんに教えてもらったのですが、このアドボカシーには人権擁護ということと、障がいをお持ちの方々の意見を代弁するという意味合いがあります。やっぱり僕らの仕事としては、日々目の前の利用者さんの支援はもちろんなんですが、彼らの意見や想いを代弁していく、引き続き代弁し続けていかなければならないというところは絶対に崩してはいけない。「ここに相談してよかった、ここへ相談したらなんとかなるんちがうんかな」って思ってもらえるような法人を目指すというところは、崩さずにやっていきたいと思っています。

木下：ありがとうございます。予防というところに焦点を当ててくということと、法人理念の見直しをしていくというお話でしたね。理念については、いいところは残して時代とともに変わっていくところは変えていくということでした。アドボカシーについては引き続き重視して取り組んでいくということでした。小川さんから予防という話が今出ましたが、坂口さん、その点に関して何かご意見いただけますか。

坂口：私はその真っただ中にいると思っています。子育ての一番の出発点である妊娠期から18歳までということで、もちろん18歳になったからといって支援を切るわけではないんですけど、その出発点にいるというところでは、私は予防をやっています。18歳まで支援をするようになって、何が大事かと言えば、やっぱりそこ、予防なんだと日々つくづく感じています。小川さんから予防の話を言ってもらって良かった。今は個別の対応や関係機関との連携しながら支援をしているんですけど、私たちも地域とのつながりをもっと深めていかないことには行政だけでケースを支援するのはとてもとても無理ですから。啓発の部分も含めて、そこは一緒にできるのではないかと思いますながら話を聞いていました。やはり支援が早ければ早いほど今の状況を改善することはもちろん、予防ができるのではないかと、思いながら、ずっと子育て世代の支援をやってきたので、小川さんとは立場は違いますが、全く同じこと思っています。同じ思いでよかったし、また一緒にやれることがあると私も確信できました。本当に今日は来させてもらって良かったです。



木下：ありがとうございます。坂口さんからは、地域という現場から早期支援の重要性についてお話をいただきました。そういう点でいうとまだまだ筍憩会が予防という観点でやっていくべきことがあるのではないかと思います。小川さんどうですか。何かご意見ありますか。

小川：その予防の観点からの活動というものが僕の中でまだしっかりイメージできていないのが正直なところですが、日々の支援で右往左往する中で突き詰めて行くとやっぱり予防のところが大切なんだという考えになりました。子どもたちへの支援という点では、筍憩会としてのつながりはほぼ無いに等しい、もしかしたら蕨野さんにはあったかもしれないんですけど、それ以外の職員になってくるとほぼ無いに等しい。じゃあその繋がりをこれから作って行くにはどうしたらいいのかを、今現在つながっているみなさんにご相談させてもらっていいですか、というところからのスタートになると思います。

坂口：やってもらえることはあると私が確信していることはあります。自分たちが学校へ入って分かったことは、子どものしんどさだけでなく、家庭のしんどさも出てきていて、学校現場はその対応に追われているということです。もし障害福祉の観点が入れば、現場に対するアドバイスの仕方がもっと変わるのではないかと思います。そして私たちも助かるし、保育園幼稚園もそうだと思うんですけど、そういうつながりは今後作っていきけるのではないのでしょうか。

木下：そうですね。思い起こすと、蕨野さんが本当に地域とつながって行って、筍憩会が地域とどんどんつながっていった。本当にいろいろなところに蕨野さんが顔を出されて、教育委員会や保健分野にも顔を出してくれたりして、筍憩会と地域とがどんどんつながっていったという経緯があるんですね。今後は予防という観点で地域とつながっていく。生前蕨野さんが、子どものことやりたいんだ、子どもの支援をしたいんだということを私に言っていました。それをどう事業活動として具体化していけるかが今後課題ですね。では、最後に一言ずついただいて本日の対談を終わりにしたいと思います。坂口さんよろしくをお願いします。

坂口：当たり前の生活を普通に送る事ができることのありがたさというものを、最近すごく感じています。世の中が厳しくなり生きづらくなっている中、その生きづらさをどう支え、笑顔で暮らせるよう支援していけばいいのか。地域の助け合いやつながりが弱くなっている中で、その生きづらさを一支援機関だけで支援していくのはとても無理です。私はやはり、いろいろな関係の人たちが手をつないで、そこに地域の人たちを巻き込みながら、どんな障害があってもどんな状況であっても、普通に当たり前に暮らしていけるように、お互いの立場や専門性を活かして、みんなで助け合いながらやっていけたらいいなと思っています。私は退職まであまりないのですが、地域とのつながりは日々すごく意識していま

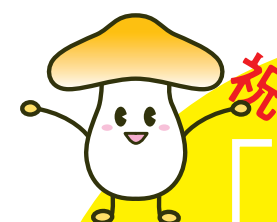
す。行政だけではとても無理だと思っているので、いかに地域の資源につなげるかというのが私の大きな課題です。残りの期間しっかり頑張りたいので、一緒に頑張ってもらえればと思います。

小川：今それこそ法人理念を明確化するにあたって、自分らしさという言葉がキーワードになっています。利用者さんはもちろん、うちの職員も、なんだったら地域の人たちも含め、誰もが自分らしく生きていくにはどうしたらいいのだろうかということを考えたいという話を、この間やっています。僕らが関わっている利用者さんであれば、この方のこの部分に支援が入れば、この方らしく生きていけるのではないかとこのところに注目しながら支援を考え直しています。自分らしく、自分らしさっていうものを、世の中の人たちが、地域の人たちがみな実感できるような社会の実現を目指すにあたって、筍憩会がその一旦を担えたらいいなと考えながら、今後とも地域とつながっていけたらと思っています。

木下：ありがとうございます。私が日頃感じていることですが、非常に複雑化している世の中を乗り切っていくにあたって、多様化という言葉が一つのキーワードになるのではないかという気がしています。今一度意図的に、職員もそうですし、関わりもそうですし、活動もそうですけど、多様化してこの時代を乗り切っていく、多様化しながらつながっていくということが今後必要ではないかと最後に一言お伝えしたいと思いました。本日はお忙しい中お集まりいただき、そして忌憚ない話をしていただき、大変ありがとうございました。筍憩会 20 周年を迎えて、30 周年、40 周年と向かって行きますので、今後ともよろしくをお願いします。どうもありがとうございました。

坂口：ありがとうございました。

小川：ありがとうございました。



20周年を迎えて

社会福祉法人筍憩会は、開所して以来、おかげさまで20周年を迎えることとなりました。地域に根付き、利用者さんのことを第一に考え、地域のための施設として、スタッフが一丸となり精進して参りました。振り返ると活動当初は3人のスタッフが、一軒家を賃借し、無認可ながらその理念を基に活動し、大きな夢と希望を持ちながらも、難問が山積みで悪戦苦闘をしたと聞いています。その後なかいクリニック中井康人氏（前理事長）の協力を賜り、障害者の方にとって居心地の良い空間とは何か、そしてその人の豊かな生活とは何かを常に模索しながら、この地域で成長させていただきました。その後、その旗振り役の故蕨野氏を失い大きなダメージを受けましたが、地域、関係機関の方々、利用者の皆さんに支えられながら、スタッフ一同協力してこの日を迎えることができました。当法人の設立当初から掲げている理念は「あくていぶ・ぼじていぶ・くりえいていぶ」です。近年、福祉は大きく変化しています。この変化の激しい中で今後30周年、40周年を見据えた視点が必要と痛感しています。より活動的、より前向き、より創造的になることで路は開けるのではないのでしょうか。20年目を迎えた今、この機会を一つの節目とし、利用者さんの幸せを願い、地域貢献を考え、ここが新たな気持ちのスタートと考えております。最後に筍憩会の発展にご協力頂きました皆様方に深く感謝いたしますと共に、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人 筍憩会 理事長 木下 忠恭

あるぺじお愛♡つながり

あるぺじおは法人設立と共に開所した施設ですので、おかげさまであるぺじおも今年20周年を迎えることになりました。4年前には市協分室も開所し、現在は、合わせて1日30名ほどの利用者さんが通所され、あるぺじおからも市協分室からも毎日賑やかな声が響いています。利用者さんは年齢も様々、利用の目的も様々ですが、何かしらのご縁があってあるぺじおとつながり、継続して利用されています。

今回、あくていぶ法人設立20周年記念号の企画として、あるぺじお愛♡を語ろう！をテーマにあるぺじおの好きな所やいい所、来てよかった所など利用者さん、職員でワークを行いました。その中から一部ご紹介をさせていただきます。

❖ レクが楽しみ

❖ 仕事が出来てうれしい。助けてくれる。

❖ 友達が出来た

❖ メンバーさんがやさしい

❖ 毎日休まず自力で通所出来るようになった。職員さんメンバーさんがやさしい。

❖ 自分らしく過ごせる場所

❖ 作業以外にレクリエーションがあって楽しい。

❖ 利用者さん職員さんともにやさしい、いろんな人との出会いがある。

❖ いろんな人の中で自分も元気をもらえる。

❖ 一人じゃないって思える場所

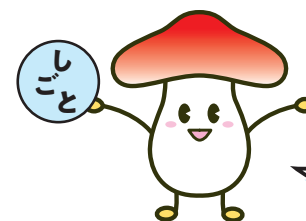
❖ 新しい仲間が出来た

全てをご紹介できないのが残念ですが、利用者の皆さんと職員より、たくさんのあるぺじお愛♡を受け取り、そこには利用者さんと職員が互いに支え合っているつながりを感じました。また、利用者さん同士のつながりは特に強く、それぞれの個性をお互いに受け入れながら、安心して通い続けられる場所を皆さんで作ってくれているように思います。そんな1人1人の何気ない一言やほっこりするエピソードに私たち職員は随分助けられているなぁと日々感謝しています。『おはようございます』『お疲れ様です』の一言から始まり、コミュニケーションを重ねていくうちに、お互いに安心して打ち解けていける、そんな場所があるぺじおなのかもしれません。

もちろん、いい所ばかりに焦点をおいてはいけません、まだまだ行き届いていない所も多いのが現状です。今後も厳しいご意見にも真摯に向き合い、ご縁があってつながった利用者さんには、あるぺじおのスローガンでもある One for all All for one を胸に、これからも変わらず1人1人の気持ちに寄り添った支援を心掛けてながら、日々の業務にあたっていきたいと思っています。

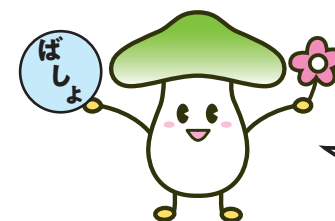
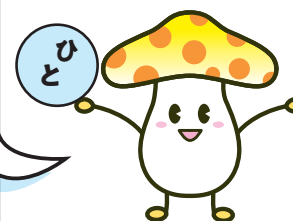
利用者の皆さんに聞いてみました

Q. あなたにとって「らぽるて」とは？



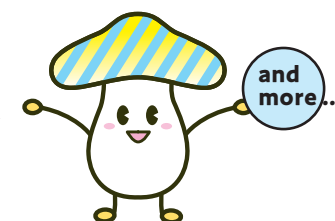
仕事場 就労するためにがんばるところ
就労にむけての練習の場 作業をするところ
作業に集中できる場所 お小遣いかせぎ やりがい

人と交流する場 人と話ができる場所 趣味の合う人とつながれた 自分の中で最高の友だちができた 同じ障がいを持つ年齢の近い友だちができた 休みの日に一緒に遊びに行ける友だちができた 利用者も職員もみんな優しい あったかい場所 家族以外との会話が増えて 趣味の幅が広がった 作業のときに優しくフォローしてくれる わからないことは教えてくれる 相談に乗ってもらえる 休んでもあったかく出迎えてくれる 普段話さない人と話す場所 人間関係がいい 寄り添ってくれるスタッフ



居場所 居心地のいい場所 安心して通うことができる安全な場所 こころのやすらぐ場所 心に栄養をくれる 社会復帰のためのリハビリ道場 社会とのつながり ぼちぼちとした環境 レクリエーションが楽しみ 新しいことを知る機会をくれた いろいろなものの見方や考え方に触れ 多くのことを学ぶ機会 楽しい らぽるてに通所していなかったらずっと引きこもりのままだったと思う 寂しさがやわらぐ 生活のメリハリ 一生手放せない場所

ひまつぶし メンテナンスの機会
通所は習慣のひとつで義務として設けている決める事



今回、利用者の皆さんに上記のお題でアンケートを実施したところ、たくさんの嬉しい言葉を寄せていただきました。「仕事」とつながり、職員や利用者さん同士の「絆」はぐくみ、「社会」とつながることができる場所であること、安全・安心な居場所であること、その大切さを再確認しました。アンケートに感謝の言葉を添えてくださる方もいて、嬉しくも身の引き締まる思いです。その言葉にふさわしい場所、ふさわしい職員であるかを常に自らに問いながら、みんなで力を合わせて、らぽるてをさらに「いいところ」だと思ってもらえる場所にしていきたいです。

わかば

わかば、毎月やってるってよ！



今日の作業は靴べらのやすりがけ、心を落ち着けて冷静に淡々と出来る作業である。そんな作業場が一瞬ザワつく…。そう「アレ」である。その匂いに包まれ、少し浮足立ち気味にメンバーさんの作業ピッチが上がる…。これが噂のわかば特製の、いや恒例の「カレーの日」の一幕である。午前中のみの通所であったり通所曜日の違いなど、わかばに通所しているにも拘わらず、普段お昼ご飯を共にする事のないメンバーさん同士のコミュニケーションが図れるかも？ 又、月一度ではあるが、日頃昼食代を節約しているメンバーさんのお昼代の助けとなればと始めたカレーの日は、様々な相乗効果を生んでいるようだ。

5月の「牛すじカレー」の調理を担当したメンバーのAさんも皆さんからの「美味しい、美味しい」の感想にまんざらでもない様子、同じくこの日の調理を担当したBさんは次回6月に、自宅で栽培しているズッキーニを持って来てくれ、カレーの名称を急遽「ぶーぶーカレー」から「ぶっキーニカレー」に変更させた上、おいしきアツプに一役買う事になる。そのぶっキーニカレーを食べ「野菜が溶け込んでいて、まろやかで美味しい」との

「なんかええ匂いして来たわー」「ほんまやなあ、煮込んでるなあ」



メンバーさんからの感想を聞き、顔を赤らめていたCさんは、今回の一度炊飯器のスイッチを押し忘れギリギリ間に合ったヒヤリ経験を経て自宅での家事に興味を持っているらしい。普段自宅では殆ど家事をしないメンバーさんも、これを機に少し新しい事を始めてみようと思うきっかけになっているようだ。

同じくこの日の調理を担当したDさんも「調理時間内に出来るかどうか不安だったが出来てほっとした」と話した。ぶっキーニカレーはたまたま訪問して頂いた有田川町にある、ふれあい作業所の職員さん、7月「七タカレー」にはわかばでの打ち合わせを終えた、紀の川市、岩出市の基幹相談センター長さんお二人とアイスクリームを持参して頂いたGHの廣野さんと、わかば以外の方々にも一緒に昼食を囲んで頂き更なる交流の場となっている。

そんな多様な繋がりを感じさせるカレーの日だが、おかわりの回数は増えたものの、食事中の会話はまだまだ活発とは言えない、まだまだ伸びしろが有りそう。とは言え、カレーの種類、本日の調理担当者などの発表も全て当日発表の為、今度は何カレーなんだろう？ そろそろ調理担当になるかもしれないドキドキ感など、カレーの日の話題が少しずつメンバーさんの間で上がってきているのも事実で、

「これで、カレーを食べた人が他の人をカレーの日に誘うくらいになったら、大成功なんやけどなあ」

とは小川所長のつぶやき……。 「七タカレー」で人参を型抜きした星に、小さな願いをかけてみた。そんな、わかばのカレーの日である。 毎月、絶賛継続中。(12月現在)



WAKABA

グループホーム

自立とつながり
～サンメゾンとピア・サラのこれから～

筭憩会のグループホームの歴史は、2003年10月の法人認可のちょうど1年後の2004(平成16)年10月『あっとホームはらだ』から始まりました。翌年2005(平成17)年10月に『あっとホームはらだ』から現在運営している『ピア・サラ』へ移行し、2007(平成19)年10月に『サンメゾン』を新たに開所しました。2023年9月現在、ピア・サラは11人、サンメゾンは15の方が利用されています。

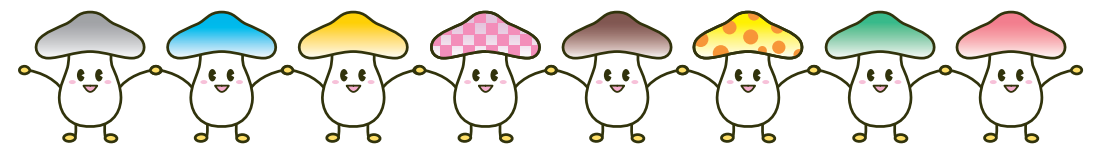


グループホームの利用目的はさまざまで、将来1人暮らしをしたい、自立したい、家(実家)を出て生活したい、困った時助けてほしいから入居した、親亡き後の事を考えると一人では生活が難しい、帰る家がない、などがあります。中でも1番多いのは「自立したい」です。「自立」とはどういう事なのでしょう。「自立」という言葉の意味も、人それぞれだと思います。自分一人で何でもできることが「自立」と考えている人もいれば、人の協力を得て自分の思うように生きることを「自立」と考えている人もいます。字面だけをとらえれば、自立の意味として正しいのは前者と感じられるかもしれませんが、人が生活をしていく上で一人では生きていくことはできません。したがって、後者の意味での自立が正しい理解だと考えます。

人は誰かとつながり、その人から自分の在りようを映し返してもらうことによって、自分というものを認識していくものだと思います。誰かと自分の姿を共有することで、自分というものは変わっていくのです。自立とは、自分と他人、地域や社会とつながりながら自分らしく生活していくことだといえるでしょう。

以上、自立をつながりという視点で眺めてみました。最後にグループホームとしての今後の目標についてふれておきます。それは、つながりの大切さをホーム全体で再認識していくこと、そして、つながりを日々の支援の中できめ細かに保障していくこと、です。難しい事をしようとは思っていません。何よりも挨拶や礼儀を大事にします。挨拶により、人と人とのつながりができ、会話が生まれます。礼儀により、人に敬意を払い、人を思いやることで、心地よく生活する事ができます。今の自分があるのは、多くの人と出会い、誰かと感情を共有し、未知の事に挑戦し失敗して、たまに成功を経験してきたからです。より自分らしく、自分が望む生活を送るためにも、自分も自分以外の人も大切にできるGH(グループホーム)、何かに挑戦して失敗しても味方がいるGH(グッドホーム)でありたいと思います。

その具体的な実践の経過については、今後適宜報告していければと思っています。



GROUP HOME

「つながり」をテーマに

登録者との「つながり」

信頼関係を築き、得意分野や不得意分野を理解し、支援のありかたについて計画していくことができる。様々な支援機関と連携して支援ネットワークを形成。チーム支援により、就職準備支援や就職、定着支援、生活支援に至るまで個人を支える「つながり」がとても重要であることを登録の際にも説明し、理解していただいている。

各関係機関との「つながり」

「連携」なくして支援は考えられない。県市町の担当者、医療機関、ハローワーク、障害者職業センター、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所等と連携し、情報共有することで多方面からの支援が期待できる。就業センター単体での支援には、当然限界がある。登録者に関わる支援ネットワークがあるからこそ支援を継続することができる。

企業との「つながり」

企業の人事担当者や先輩職員、同僚の職員とも「つながり」を持つことが重要である。登録者と企業のマッチングや、働きやすい環境づくりのお手伝い、障がい特性を踏まえた雇用管理に係る相談など多岐にわたった支援が可能となる。

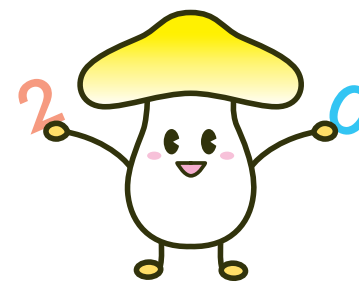
伊都障がい者就業・生活支援センターは設立当初から、企業や各関係機関、医療機関との情報共有など、ネットワークを大切にした運営を心掛けています。顔の見える関係を積み重ねてきた結果、様々な情報が集まり、就職や定着支援に大いに役立っています。

この事業を始めて 15 年目。日々、ネットワーク強化に取り組み、橋本・伊都圏域における「雇用と福祉のネットワーク」の中心的役割を担い、ハブ的機関となれるよう業務を遂行しております。「つながり」なくしてセンター業務は成り立たず、企業や各関係機関の協力があったこそ就業センターも運営できていると考えます。

本当に皆様には日々お世話になり、ありがとうございます。
今後ともよろしくお願い致します。



筍憩会20周年を迎えて、 つながりについて 改めて考えてみる。



今までいろいろな方と相談という仕事を通じてつながらせていただいた。生活で困って勇気をもって相談に来られて、つながり、生活が落ち着いた方、今も支援の途中の方、つながり続けながら出会いや別れもあった。支援途中で急につながりが切れて二度と会うことが叶わなくなった方もいた。過去の会話の楽しい思い出がよみがえることもある。人とつながり、その中で支援がうまくいき、生活が安定し、病状が回復したことをともに喜びあえることで自身にもこの仕事を継続するエネルギーをもらい、仕事をする幸せになっている。相談を通じこの私を必要としてくれる人がおり、この相談をしていて外部とつながれることはよさであるが、しかしこの仕事には人が来ない。支援の調整でなかなか時間内で仕事が終わらず、残業することもある。どうしても対人援助なのでストレスがたまりやすい。では、ストレス対処にはどうすべきか。

「鈍感力」という言葉が10年以上前に流行ったことがあった。ある有名な作家が書いた著書であるが、時の総理がよく口にした。「鈍感力」とはストレスを正面から受けずうまく流すスキルのことで、「あえて気にしない」「意識して忘れる」ことで、精神的ストレスをうまくコントロールし、ポジティブ思考で仕事を行っていくとするものである。いい意味での「鈍感力」を身に着けて仕事にあたることにしたい。しかし利用者の相談には「鈍感」の感覚ではなく、そこは「敏感」につながりながらあたらなければならないと思う。

相談支援専門員の1日

- 8:20** 出勤、タイムカード打刻、ポットの水替え
- 8:30** 朝礼、本日の仕事内容の確認、業務日報記入
(月曜日は室内の掃除、机の整理、整頓、トイレ、洗面所の掃除を丁寧に行います(へへ))
- 9:00** 関係機関等への連絡調整、メール確認、事務作業
- 9:30** 利用者宅訪問(車での移動)
- 11:00** 利用者宅訪問 ご本人、ご家族の意向をじっくり聴きます
- 12:00** 昼食
(この時間に昼食が摂れることはまれ!です。忙しくて食べ損ねることもあります)
- 13:30** 会議参加
- 15:30** デスクワーク(データ入力、アセスメント、計画案、モニタリング作成)
- 17:00** 業務終了、戸締り確認して帰宅(できたらいいのに~願望)

その他、毎週火曜日は橋本市保健福祉センター内橋本・伊都障がい者相談センターに勤務し市町村の委託を受けて福祉サービスの利用や生活の困りごとについて相談を受けています。

1977
昭和52年

「社会福祉法人筍憩会」の前身
「憩いの家共同作業所」開所

日本初の静止気象衛星「ひまわり」打ち上げ

2003
平成15年

10.01
「社会福祉法人筍憩会」認可

SMAP世界に一つだけの花257万枚大ヒット

2004
平成16年

06.01
「障害者総合社会復帰施設
あるべじお」開所

10.01
精神障害者地域生活援助事業
「あっとホームはらだ」
(グループホーム)開所

アテネ五輪金16個獲得

2005
平成17年

10.01
「あっとホームはらだ」から
「ピア・サラ」(グループホーム)
へ移行

12.01
精神障がい者居宅介護等事業
ホームヘルプサービス開始

JR福知山線脱線事故発生
(死者107名負傷者562名)

2006
平成18年

10.01
障害者自立支援法へ移行
*就労移行支援事業
*就労継続支援B型事業

「ピア・サラ」
*共同生活援助事業
(グループホーム)

フィギュア荒川選手、トリノ五輪で金メダル

2007
平成19年

04.01
「伊都障がい者就業・生活支援
プレセンター」開所
和歌山県障害者就業・
生活サポートセンター事業

10.01
「障がい者地域生活相談センター」開所
*障害者相談支援事業

「サンメゾン」開所
*共同生活介護事業
(ケアホーム)

居宅介護事業「ホームヘルプ
くれしんど」に名称変更

12.01
「ピア・サラ」
*共同生活介護事業
(ケアホーム)

各地で食品偽装

2008
平成20年

04.01
「伊都障がい者就業・生活支援
センター」開所
*障害者就業・
生活支援センター事業
(和歌山県障害者就業・
生活サポートセンター事業から移行)

オバマ米国大統領、誕生

2009
平成21年

05.01
「サンメゾン」
*共同生活援助事業
(グループホーム)開始

裁判員制度による初の裁判が始まる
(裁判員裁判)

東日本大震災発生

2011
平成23年

01.01
「障害者総合社会復帰施設あるべじお」
*自立訓練(生活訓練)
事業開始(あるべじお2)

2012
平成24年

01.04
「伊都障がい者就業・生活支援
センター」が橋本市福祉センターへ移転

03.01
「あるべじお2」移転

ユーキャン新語・流行語大賞年間大賞
「今でしょ」「おもてなし」

2013
平成25年

04.01
「若葉作業所」合併
*就労移行支援事業
*就労継続支援型B型事業

あべのハルカスが完成。高さ300m日本一
高いビルとなる

2014
平成26年

08.31
「ホームヘルプくれしんど」閉所

マイナンバー制度がスタート

2015
平成27年

03.31
「若葉作業所」就労移行支援事業
サービス終了

04.01
「わかば」に名称変更
相談支援事業所「わかば」開所
「らぼるて」開所
*自立訓練(生活訓練)事業
*就労継続支援型B型事業

フィギュア羽生結弦が
史上最年少23歳で国民栄誉賞受賞

2018
平成30年

05.01
「あるべじお市協分室」開所
「あるべじお」に名称変更

10.01
「わかば」移転

消費税10%スタート

2019
令和1年

03.31
相談支援事業所「わかば」閉所

新型コロナウイルス感染症の世界的
流行が始まる

2020
令和2年

01.31
「らぼるて」自立訓練(生活訓練)事業
サービス終了

MLBの大谷選手がアメリカン・リーグMVP

2021
令和3年

10.01
法人設立20周年

2023
令和5年

決算報告

第一号第一様式

法人単位資金収支計算書

(自) 令和4年4月1日 (至) 令和5年3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入 障害福祉サービス等事業収入 受取利息配当金収入 その他の収入	18,140,000 209,536,246 0 90,000	22,561,997 204,696,655 8,570 2,747,035	△ 4,421,997 4,839,591 △ 8,570 △ 2,657,035
		事業活動収入計(1)	227,766,246	230,014,257	△ 2,248,011
	支出	人件費支出 事業費支出 事務費支出 就労支援事業支出	147,716,700 23,450,404 29,915,694 18,140,000	143,432,608 21,828,898 26,377,193 22,229,186	4,284,092 1,621,506 3,538,501 △ 4,089,186
		事業活動支出計(2)	219,222,798	213,867,885	5,354,913
		事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	8,543,448	16,146,372	△ 7,602,924
施設整備等による収支	収入				
		施設整備等収入計(4)	0	0	0
	支出	固定資産取得支出	1,076,848	1,076,848	0
		施設整備等支出計(5)	1,076,848	1,076,848	0
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 1,076,848	△ 1,076,848	0
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入 その他の活動による収入	646,200 0	875,700 25,000	△ 229,500 △ 25,000
		その他の活動収入計(7)	646,200	900,700	△ 254,500
	支出	積立資産支出	2,312,800	2,002,200	310,600
		その他の活動支出計(8)	2,312,800	2,002,200	310,600
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 1,666,600	△ 1,101,500	△ 565,100
		予備費支出(10)	5,800,000 △ 0	—	5,800,000
		当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	13,968,024	△ 13,968,024
		前期末支払資金残高(12)	0	76,406,527	△ 76,406,527
		当期末支払資金残高(11)+(12)	0	90,374,551	△ 90,374,551

決算報告つづき

第二号第一様式

法人単位事業活動計算書

(自) 令和4年4月1日 (至) 令和5年3月31日

(単位:円)

勘 定 科 目			当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A)－(B)	
サービス活動増減の部	収 益	就労支援事業収益	22,561,997	22,464,037	97,960	
		障害福祉サービス等事業収益	204,696,655	195,119,654	9,577,001	
		経常経費寄附金収益	0	100,000	△ 100,000	
		サービス活動収益計 (1)	227,258,652	217,683,691	9,574,961	
	費 用	人件費	146,491,483	147,853,413	△ 1,361,930	
		事業費	21,828,898	20,564,254	1,264,644	
		事務費	26,377,193	25,673,382	703,811	
		就労支援事業費用	22,564,867	22,464,037	100,830	
		減価償却費	6,643,991	6,044,507	599,484	
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 1,788,186	△ 1,809,024	20,838	
徴収不能引当金繰入		67,832	163,178	△ 95,346		
サービス活動費用計 (2)		222,186,078	220,953,747	1,232,331		
サービス活動増減差額 (3)=(1)－(2)		5,072,574	△ 3,270,056	8,342,630		
サービス活動外増減の部	収 益	受取利息配当金収益	8,570	23,016	△ 14,446	
		その他のサービス活動外収益	2,747,035	1,010,987	1,736,048	
		サービス活動外収益計 (4)	2,755,605	1,034,003	1,721,602	
	費 用					
		サービス活動外費用計 (5)	0	0	0	
	サービス活動外増減差額 (6)=(4)－(5)		2,755,605	1,034,003	1,721,602	
	経常増減差額 (7)=(3)＋(6)		7,828,179	△ 2,236,053	10,064,232	
	特別増減の部	収 益	その他の特別収益	12,802	546,120	△ 533,318
			特別収益計 (8)	12,802	546,120	△ 533,318
費 用		固定資産売却損・処分損	3	268,678	△ 268,675	
		特別費用計 (9)	3	268,678	△ 268,675	
		特別増減差額 (10)=(8)－(9)	12,799	277,442	△ 264,643	
当期活動増減差額 (11)=(7)＋(10)		7,840,978	△ 1,958,611	9,799,589		
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額 (12)		98,155,991	100,114,602	△ 1,958,611	
	当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)＋(12)		105,996,969	98,155,911	7,840,978	
	基本金取崩額 (14)		0	0	0	
	その他の積立金取崩額 (15)		0	0	0	
	その他の積立金積立額 (16)		0	0	0	
	次期繰越活動増減差額 (17)=(13)＋(14)＋(15)－(16)		105,996,969	98,155,991	7,840,978	

第三号第一様式

法人単位貸借対照表

令和5年3月31日現在

(単位:円)

資産の部			
	当年度末	前年度末	増減
流動資産	100,004,158	89,476,415	10,527,743
現金預金	65,712,297	56,784,230	8,928,067
事業未収金	35,175,592	33,220,254	1,955,338
貯蔵品	21,000	21,000	0
商品・製品	15,376	23,302	△ 7,926
原材料	130,031	422,737	△ 292,706
徴収不能引当金	△ 1,050,138	△ 995,108	△ 55,030
固定資産	137,483,045	142,071,557	△ 4,588,512
基本財産	38,108,975	39,394,364	△ 1,285,389
土地	15,427,448	15,427,448	0
建物	22,681,527	23,966,916	△ 1,285,389
その他の固定資産	99,374,070	102,677,193	△ 3,303,123
建物	11,950,127	12,649,280	△ 699,153
構築物	706,151	859,601	△ 153,450
機械及び装置	1	1	0
車輛運搬具	5,788,597	8,831,387	△ 3,042,790
器具及び備品	792,005	1,089,005	△ 297,000
権利	17,430	23,005	△ 5,575
ソフトウェア	656,359	888,014	△ 231,655
退職給付引当資産	16,997,400	15,870,900	1,126,500
設備等整備積立資産	59,000,000	59,000,000	0
差入保証金	3,466,000	3,466,000	0
資産の部合計	237,487,203	231,547,972	5,939,231

負債の部			
	当年度末	前年度末	増減
流動負債	17,241,338	19,425,957	△ 2,184,619
事業未払金	5,933,871	8,086,277	△ 2,152,406
未払費用	4,011,265	4,988,586	△ 977,321
職員預り金	589,202	544,094	45,108
賞与引当金	6,707,000	5,807,000	900,000
固定負債	18,782,150	16,598,275	2,183,875
退職給付引当金	18,180,150	16,021,275	2,158,875
その他の固定負債	602,000	577,000	25,000
負債の部合計	36,023,488	36,024,232	△ 744
純資産の部			
基本金	16,152,448	16,152,448	0
第1号基本金	16,152,448	16,152,448	0
国庫補助金等特別積立金	20,314,298	22,215,301	△ 1,901,003
その他の積立金	59,000,000	59,000,000	0
設備等整備積立金	59,000,000	59,000,000	0
次期繰越活動増減差額	105,996,969	98,155,991	7,840,978
(うち当期活動増減差額)	7,840,978	△ 1,958,611	9,799,589
純資産の部合計	201,463,715	195,523,740	5,939,975
負債及び純資産の部合計	237,487,203	231,547,972	5,939,231

社会福祉法人 筍憩会 後援会 入会のご案内

社会福祉法人筍憩会では、私たちの活動にご協力くださる
後援会の会員の方を募集しております。

会費につきましては、筍憩会で行われている各事業の運営費補助、
広報誌「あくていぶ」の送付等に活用させていただきます。

なお、ご入会いただいた方には、生しいたけ（1袋200g入り）をお届けいたします。

お届けするしいたけは、あるべじおにて日々愛情を込めて育てているものです。

是非、ご入会頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

年会費

1000円会員 …… 広報誌「あくていぶ」をご送付

3000円会員 …… 広報誌「あくていぶ」& 年1回「生しいたけ」をご送付

5000円会員 …… 広報誌「あくていぶ」& 年2回「生しいたけ」をご送付

詳しいお問合わせは、法人事務局（担当：稲葉）までご連絡ください。

TEL.0736-33-3317 FAX.0736-33-3318

編集後記

指先ひとつで多くの事がはっきりしてしまうご時世に、
誰そ彼時を懐かしむ
今日この頃です。（神谷）

あっという間の20年。我ながら本当によく頑張ってきた
と思います。これからは、自分の時間も大切に、引
き続きメンバーさんの思いに寄り添った支援ができる
よう、自分にパワーをつけたいと思います。（稲葉）

20周年記念号はいかがでしたか？
対談を文字に起こす作業に悪戦苦闘…
今回も皆様に助けられ感謝でいっぱいです。（福本）

東欧と中東で起こっている悲劇について
思いを馳せながら、人間とは何かと沈黙思考する
日々が続いています。（静）



社会福祉法人 筍憩会

